

市立三次中央病院 第5回 CS 向上推進活動

サークル活動完了報告書

サークル名	きれいにし隊	発表者	河野 益美
		リーダー	河野 益美
部署	5階東病棟	サブリーダー	吉川 裕子
活動期間	開始:平成 23 年 10 月 1 日 終了:平成 24 年 1 月 25 日	メンバー	吉川 裕子
会合状況	会合回数 <u>10</u> 回 1回あたりの会合時間 <u>45</u> 分		
所属長/推進メンバー		所見欄	
レビュー担当者			

テーマ

意識的に環境整備に取り組もう！

テーマ選定理由

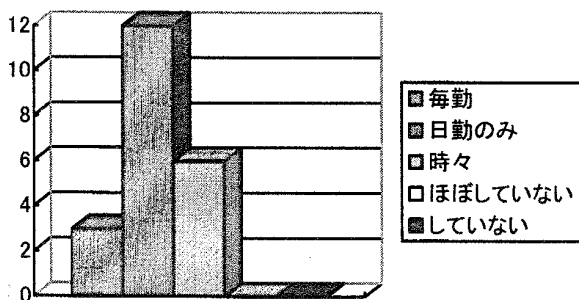
環境整備を毎日行っているが、ベッドサイドが乱雑な現状があり、環境整備を改めて意識し、看護師の意識向上を図り、患者の生活環境を充実させるため。

現状把握

平成 23 年 10 月 1 日に病棟スタッフへ環境整備についてのアンケートを実施。
環境整備ができていないと感じる看護師は全員であり、その理由として以下の内容があげられた。

- ・ 持参された尿取りパット、オムツが床にそのままの状態に置いてある。
- ・ 牛乳やテルミールなど飲まないものなどが置いてある。
- ・ オーバーテーブルにごちゃごちゃ物が置いてある。
- ・ 床が濡れている。ティッシュが落ちている。
ベッドレバーが収まっていない。
- ・ 廊下にパソコンが出たままになっている。
- ・ ベッドサイドに未使用の病衣やタオル、点滴台や氷枕がそのままになっている。
- ・ オーバーテーブルが物置になっている。

各勤務帯での環境整備の実施について



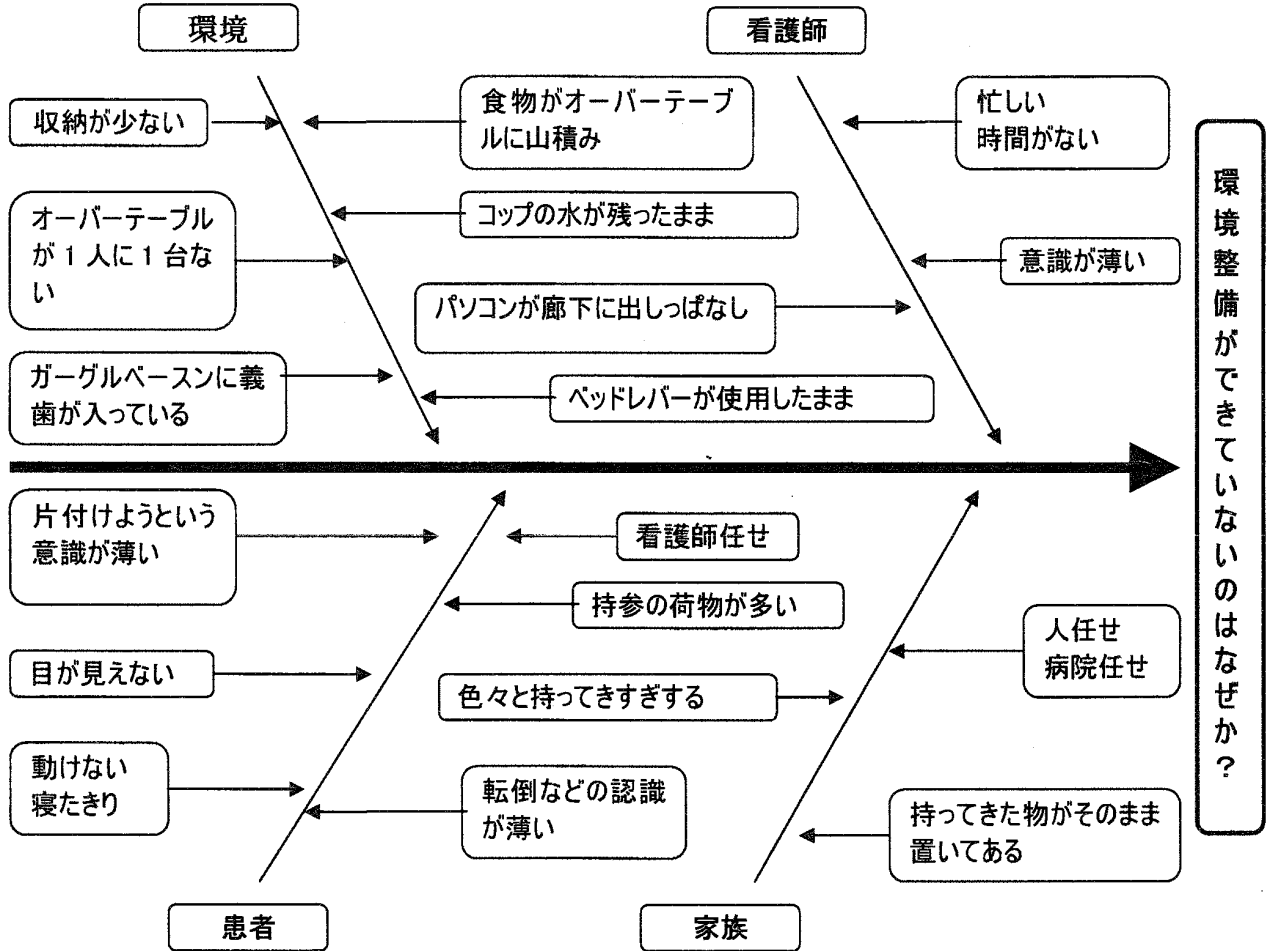
環境整備に対する点数について
自分の点数・・・平均 60 点

病棟の点数・・・平均 59 点

目標設定

自分と病棟の環境整備に対する点数(平均点)が80点となり、環境整備に対する看護師の意識が高まり、患者の生活環境が改善される。

要因解析



対策立案

環境整備を行い、患者の生活環境を充実させるためには

看護師の意識を向上させる

オーバーテーブルやベッドサイドを片付ける時間を作る

スタッフの目につく場所にポスターを貼る

環境整備について声かけを行う

患者・家族からの協力を得る

入院時に床頭台に荷物を片付けてもらう

オムツなどを床に置かず、持参したら床頭台に片付けてもらう

病院環境の改善

収納場所を増やす
床頭台を大きいものに変える

オーバーテーブルを1人1台となるよう増やす
冷蔵庫を1人1台設置する

効果 実現性 持続性 経済性 評価

◎	◎	◎	◎	20
---	---	---	---	----

◎	◎	○	◎	18
---	---	---	---	----

◎	○	○	◎	16
---	---	---	---	----

◎	○	○	◎	16
---	---	---	---	----

◎	△	○	◎	14
---	---	---	---	----

◎	×	○	×	8
---	---	---	---	---

△	×	△	×	2
---	---	---	---	---

◎:5点 ○:3点 △:1点 ×:0点 (14点以上で実現性のあるものを実施)

対策実施

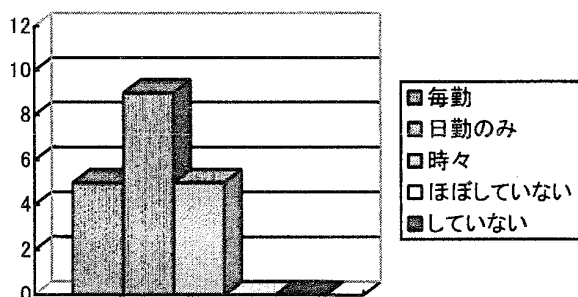
	何を	いつ	どこで	誰が	どうする
①	ポスター、シール	11月1日～	病棟	CS 担当者	ポスター: 職員用トイレ、休憩室 シール: 各ベッドサイド用パソコンを貼る。
②	オーバーテーブルの上	11月1日～	病室	看護師 看護助手	昼食前に片付ける。
③	パソコンワゴン	11月1日～	病棟	看護師	各勤務ごとに詰所内へ収める。
④	荷物	11月1日～	病室	看護師 患者・家族	入院時に床頭台に片付ける。
⑤	オムツ	12月1日～ 12月7日	病室	看護師	寝たきり患者のオムツの収納場所を決めてバラして入れる

(注) ⑤については試行中にオムツが汚染した例があったため、すぐに中止とした。

効果確認

平成 24 年 1 月中旬に病棟スタッフに環境整備についてのアンケートを再度実施。

各勤務帯での環境整備の実施について



環境整備に対する点数について

自分の点数・・・平均 64 点

病棟の点数・・・平均 63 点

4点 UP!!

4点 UP!!

活動前と活動後では毎勤で環境整備を行うようになったスタッフが2人増加。

また、環境整備に関して自分の点数と病棟との点数についてもわずかではあるが、上がった。

アンケートの中の「実施前と比べ、自分自身に変化がありましたか」との問いに対し、12 人 (63%) が「はい」と答えた。

その理由として

- ・ 環境整備を積極的にするようになった。
- ・ 気をつけるようになった。
- ・ 意識的に行うようになった。
- ・ 常に床頭台やオーバーテーブル上の整頓を心がけるようになった。
- ・ 環境に気を配るようになった。
- ・ 気になったらその時に片付けるようになった。

などがあげられており、看護師への意識付けにつながったと考えられる。

標準化

何を	いつ	どこで	誰が	どうする
オーバーテーブル上	昼食前	病室	看護師 看護助手	整理する 例：飲みかけの牛乳やジュースなどを捨てる、汚れを拭き取るなど
パソコンワゴン	各勤務終了時	病棟	看護師	詰所内へ片付ける
荷物の整理整頓について	入院時	病室	看護師	患者・家族へ収納場所が少ないこと、不要なものはなるべく持ち帰ってもらうように説明する
ベッドサイドの不要なもの（タオル類、氷枕、点滴台など）	巡室時	病室	看護師	持ち帰り、片付ける

まとめと今後の課題

今回、環境整備に着目し、活動を行ってきた。結果として看護師の環境整備に対する意識向上を図ることができたが、活動前と比べ自分自身に変化があったと感じるスタッフが全員ではなかった。その理由として活動開始後に人員不足となり、平日のスタッフ数も休日体制であることが多かったことや、環境整備を意識できるための声かけが少なく、スタッフ全員に周知徹底できているかどうかの確認が不十分であったことなどが考えられる。活動後のアンケートの中に今後の取り組みとして、朝のカンファレンス時に声かけを行うという意見もあり、今後実践していきたい。

また、家族・ADLが自立している患者への協力を得るため、床頭台に整理整頓を呼びかけるものを貼る予定であったが、取り組みが遅く、活動期間中に実施できなかった。そのため引き続き実践し、効果を確認していくとともに入院時のオリエンテーションの中で、収納スペースが少ないため不要なものはなるべく持ち帰っていただくよう説明し、協力を求めていくことも必要であったことを感じたため、今後は入院時のオリエンテーションに取り入れていきたい。

今回の活動を通して、スタッフの環境整備に対する意識向上は図れた。しかし、実際に積極的に行動するまでに至っている例が少なく、活動後のアンケートにも「不要なタオル類や氷枕などがベッドサイドに置いてあることがある」、「オムツが床に置いてあることがある」、「まだ意識がうすい」などの環境整備が十分にできていないと感じている回答が依然としてあるため、今後も継続して環境整備に取り組んでいく必要があると感じた。